

1 研究主題

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業の構築

～すべての子どもの可能性を引き出す複線型の授業づくりを目指して～（1 / 3年次）

2 主題設定の理由

令和3年度から5年度までの3年間、「すべての学びの質を高める授業の構築 ～すべての子どもの主体性を引き出す指導の展開～」という研究テーマのもと、授業改善の在り方について追究するとともに、授業公開等を通して研究内容の普及啓発に努めてきた。

その3カ年計画で推進した研究を通して、以下のような成果と課題が得られた。

【成果】

- 導入の場面で子どもに問題場面を視覚的に捉えさせ、問題解決における見通しをもたせたことにより、個人思考が充実し、集団思考において広がりや深まりを実現させることができた。
(問題場面の設定や課題提示の工夫)
- 既習と関連付けて本時のめあてを子どもと共有することで、めあてに正対したまとめや振り返りにつなげるなど、学習過程の充実が図られた。
(見通しと振り返りの充実)
- 1人1台端末を利用することで、他のグループの考え方から新たな見方に気付くなど、個別と協働の活動を往還する場面を充実させることができた。
(個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実)

【課題】

- 単元のねらいを踏まえ、単元の指導計画を活用して指導と評価を一体化させるとともに、子どもが単元を通して学ぶ道筋を明確にするなど、子どもの学びの主体性を高めるよう工夫する必要がある。
(主体的な学びの実現)
- 育成を目指す資質・能力の実現に向けては、単元を通じた学びの道筋を明確にすることが大切であることから、指導と評価の一体化をより一層推進する必要がある。
(子どもの実態に応じた重点的な指導や評価等の工夫について)
- 個人で考えたことを意見交換したり議論したりすることで、新たな考え方に気付いたり、自分の考えをより妥当なものにしたりするなど、協働的な学びの充実を図る手立てをより一層検証する必要がある。
(多様な他者と協働する場面の設定について)

これらの成果と課題を受け、函館市の教育が目指す子どもの具現化に向けて「主体的な学び」の充実をより一層推進するとともに、子どもの学びの過程のさらなる質的向上を図っていく必要があることから、令和6年度からの3カ年は、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善につながる個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業づくりおよび学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた、より実践的な研究を構築したいと考える。

また、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るためには、GIGAスクール構想の推進のもと、ここ数年で環境整備が整った1人1台端末の、これまでにない量と質のデータを取り扱うことができるよさを生かし、個々の特性等に合った多様な方法で子どもが学習を進めることができる可能性を最大限に発揮することは、欠かすことができない視点である。

そこで、子どもが主体的に1人1台端末を活用しながら、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせ、各教科における学習の過程を繰り返し、概念的知識や思考力・判断力・表現力等の高次元資質・能力を身に付けていくことを通して、学習指導要領改訂の基本方針の1つである「生涯にわたって能動的に学び続ける」力を育成することを目指し、各教科における学習過程の質的向上および学習指導の在り方について研究を深めていきたいと考え、本研究主題を設定した。

とりわけ、学習指導の在り方については、一人一人の子どもが興味・関心等に応じた課題意識を持ち、多様な方法で多様な課題を解決していく学習活動を展開することが重要である。課題に対するア

ブローチや学び方は一人一人異なることから、その実現のためには、1人1台端末とクラウド環境を学習の基盤にした、複線型の授業のイメージを共有する必要があるなど、「授業観」の転換が必要であることを踏まえ、研究の内容や全体構想図等を作成することとした。

3 研究の目的

1人1台端末とクラウド環境を学習の基盤とした「授業観」の転換を図ることで、各教科等における学習の過程を踏まえた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を図るとともに、一人一人の子どもの主体性を引き出し、身に付けさせたい資質・能力を確実に育む学習指導の在り方を明らかにして、市内各学校へ普及啓発することを目的とする。

4 研究仮説

次のような仮説を設定し、研究を推進することとする。

複線型の学びを取り入れた授業を展開し、「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいて各教科等の特質に応じた学習過程の質的改善を図ることで、一人一人の子どもの主体性を引き出し、すべての子どもの確かな学力の向上に結び付けることができるであろう。

5 研究内容

- 研究内容「複線型の授業づくり」
 - ・単元を通した評価規準の設定
 - ・指導と評価の一体化
 - ・1人1台端末を活用した授業づくり
 - ・クラウドおよび共同編集の活用
 - ・ねらいを踏まえた学習課題の提示
 - ・各教科等の特質を踏まえた学習の過程の工夫

6 研究計画

| 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ◇ 基礎研究・授業研究 ◇ 研究計画の作成 <p>【研究内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 複線型の授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・単元を通した評価規準の設定 ・指導と評価の一体化 ・1人1台端末を活用した授業づくり ・クラウドおよび共同編集の活用 ・授業の一部に複線型を取り入れた授業づくりの実践と検証 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 専門研修における授業公開と研究内容の普及・啓発 ◇ 1年次の研究成果と課題の整理 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 理論研究・授業研究 ◇ 研究計画の見直し <p>【研究内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 複線型の授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを踏まえた学習課題の提示 ・授業のねらいに合わせた複線型の授業の実践と検証 ・各教科等の特質を踏まえた複線型の授業の実践と検証 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 専門研修における授業公開と研究内容の普及・啓発 ◇ 2年次の研究成果と課題の整理 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 理論研究・授業研究 ◇ 研究のまとめ <p>【研究内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 複線型の授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の特質を踏まえた複線型の授業の実践と検証 ・1人1台端末とクラウドを学習の基盤とした複線型の授業における指導と評価の一体化の実践と検証 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 専門研修における授業公開と研究内容の普及・啓発 ◇ 3年間の研究成果と課題の整理 |

7 「複線型」の授業について

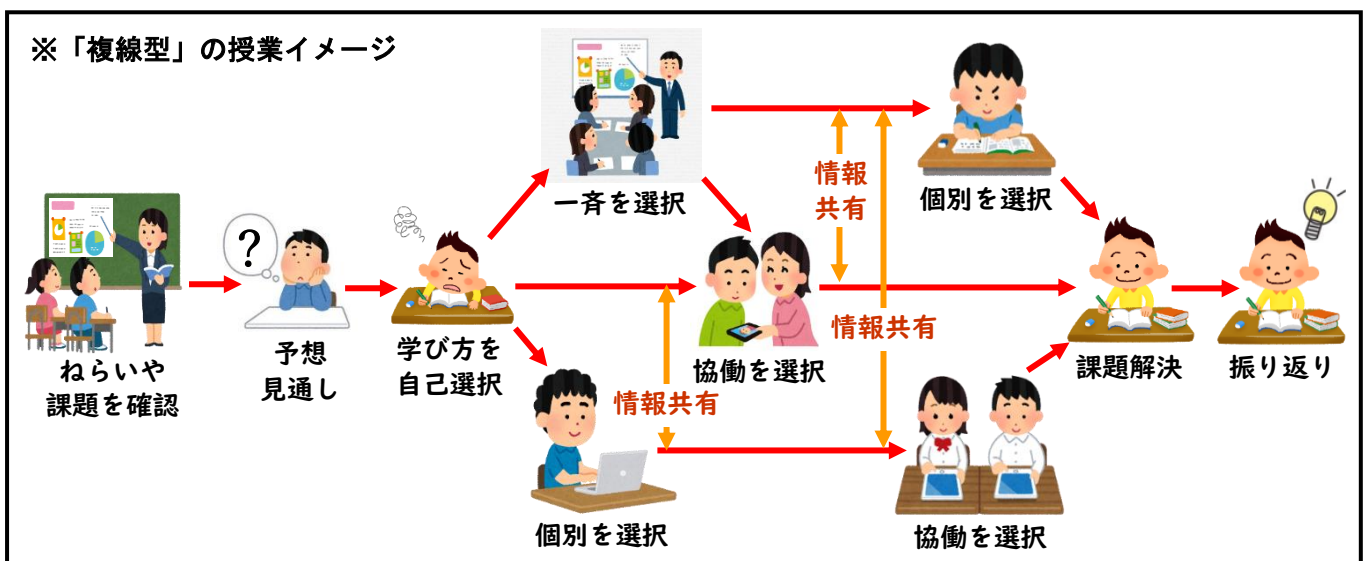
本研究主題に迫るためには、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図るうえで重要

なツールである1人1台端末の利用について、従前の、授業者がどう使うかという視点だけでなく、クラウド環境を最大限利用し、一人一人の子どもが主体的に活用することが大切な視点となる。

これまでの授業の過程では、一斉に個人思考し、一斉にグループで話し合い、一斉に全体で交流していた。このとき、何がわからないかということもわからない子どもは、ただ発表を聞き、授業を終えていたということがあるのではないだろうか。

しかしながら、1人1台端末の共同編集機能等を活用して、リアルタイムで更新される他者の取組を共有することにより、何がわからないか気付いたり、課題の理解が促されたり、自分のつまずきに気付いたりする機会が格段に増えることが期待できる。練り合いによる高度な成果への期待はいうまでもなく、わからない子どもにとっても、主体的に1人1台端末を活用することのメリットは大きいと考える。

この視点で、課題を解決する場面を想定したとき、まずは一人で課題に向き合いたい子もいれば、最初から他者と相談したい子、自分の考えに納得できてから他者と練り合いたい子、先生にじっくりと説明してもらいたい子等、学び方は様々である。こうした様々な学びの流れがある授業が「複線型」の授業である。



単元全体をデザインする中で、上記の学習形態を取り入れた授業を適宜、適切に位置付け、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、すべての子どもの可能性を引き出す授業づくりを目指すこととする。

「学習指導要領（平成29年3月公示）の趣旨を踏まえ、児童の学びの機会を拡大し、主体的・対話的で深い学びの実現を図ることを目指す。」

「令和6年度教育課程（令和6年1月31日現在）に基づき、児童の学びの機会を拡大し、主体的・対話的で深い学びの実現を図ることを目指す。」

【函館市教育振興基本計画】
 「函館の教育がめざす人間像」
 自立…生涯を通じて学び続け、主体的に判断して変化する社会を生きる人
 共生…寛容さと思いやりの心をもって、多様な人々と絆を結び共に支え合う人
 創造…世界に目を向け、新たな価値を創り、まちの魅力を高める人

【基本目標】 変化する社会を生きる力の育成

「確かな学力を育む教育の推進」

| | | |
|--|--|---|
| 2 | 1 | 3 |
| 学習の基盤となる資質・能力を育む活動の充実 | 授業改善の推進 | 学習習慣の定着に向けた取組の推進 |
| (1) 言語能力を育成するよう各教科等の特質に応じた言語活動の充実 (2) 情報モラルを含む情報活用能力の育成 (3) 1人1台端末や情報通信ネットワーク等の情報手段を活用した学習活動の充実 (4) 問題発見・解決能力を育成するよう横断的・総合的な探究課題に取り組むなど、身に付けた知識・技能を活用できる学習活動の充実 | (1) 調査等の結果分析および授業改善等への活用 (2) 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の確実な育成 (3) 教育目標や地域の実情を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 (4) 指導と評価の一体化による授業改善および充実 (5) 児童生徒一人一人に応じたきめ細かな指導の充実 | (1) 児童生徒の興味・関心を喚起し、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動の推進 (2) 主体的に学習に取り組む態度の涵養や望ましい学習習慣の定着に向け、児童生徒の実態に応じた学習量や授業内容との関連などに配慮した家庭学習の取組を、家庭と連携を図りながら学校全体で推進 |

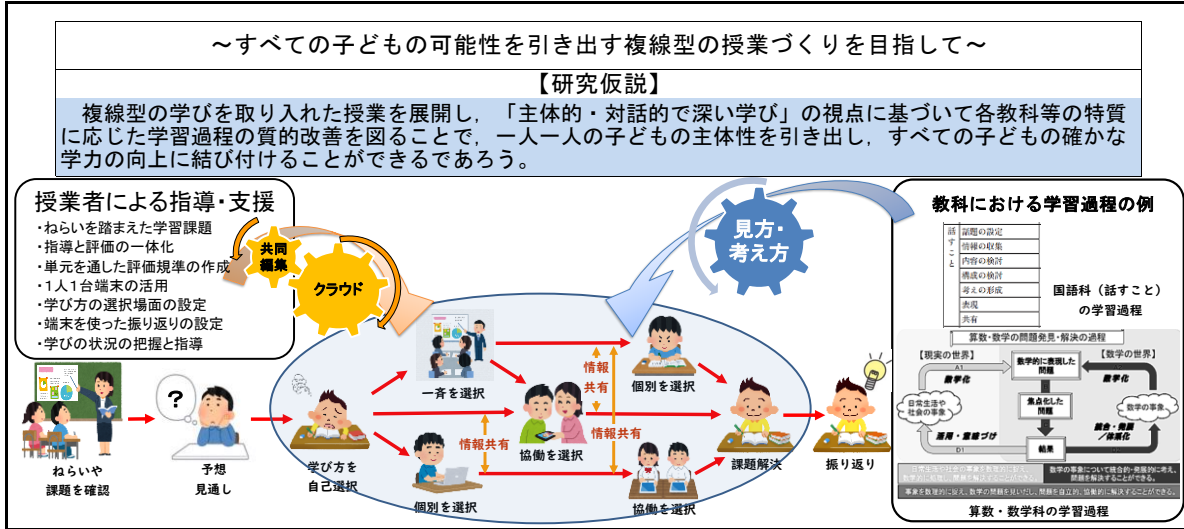
「誰一人取り残さず個々の可能性を最大限に引き出す教育」のために

すべての子どもが安心して通うことができる学校 → ← すべての子どもの可能性を引き出す授業

II 教 2 0
 育 2 4
 す べ て の の た め に
 子 ど も が 安 心 し て 通 う こ と が 授 業
 だ る が 誰 一 人 取 り 残 さ ず 個 々 の 可 能 性 を 最 大 限 に 引 き 出 す

【研究主題】
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業の構築
 ~すべての子どもの可能性を引き出す複線型の授業づくりを目指して~

| | |
|--|--|
| <p>【目指す子ども像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自己調整しながら粘り強く学習を進めようとする子 ○ 学習を深め、広げようとする子 ○ 異なる考え方を組み合わせ、よりよい学びを生み出そうとする子 | <p>学びの過程の質的向上を図る</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 単元を通じた評価規準の設定、指導と評価の一体化 2 1人1台端末を活用した授業づくり、クラウドおよび共同編集の活用 3 ねらいを踏まえた学習課題の提示、各教科等の特質を踏まえた学習の過程の工夫 |
|--|--|



2 授業実践

第1学年 国語科学習指導案

日 時 令和6年10月29日（火）第5教時
生徒 1年C組 32名
指導者 教諭 佐々木 敬

1. 単元名 「根拠を明確にして意見文を書く」～意見文を書いて情報を発信しよう～
(5時間扱い)

2. 単元の目標

- (1) 原因と結果，意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。
〔知識及び技能〕 (2) ア
- (2) 目的や意図に応じて，日常生活の中から題材を決め，集めた材料を整理し，伝えたいことを明確にすることができる。
〔思考力，判断力，表現力等〕 B (1) ア
- (3) 根拠を明確にしなが，自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。
〔思考力，判断力，表現力等〕 B (1) ウ
- (4) 言葉がもつ価値に気付くとともに，進んで読書をし，我が国の言語文化を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする。
〔学びに向かう力，人間性等〕

3. 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|-----------------------------------|
| ①原因と結果，意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 ((2) ア) | ①「書くこと」において，目的や意図に応じて，日常生活の中から題材を決め，集めた材料を整理し，伝えたいことを明確にしている。 (B(1)ア) ②「書くこと」において，根拠を明確にしなが，自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 (B(1)ウ) | ①進んで根拠を明確にし，学習課題に沿って意見文を書こうとしている。 |

4. 単元について

この単元は，自分の考えの根拠を明確にするための情報の整理の仕方を学習の要点としている。学習を進めるにあたり，SDGsをテーマにして，自分の考えを書く学習を設定した。2015年，国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された国際的な目標を題材とする。これからの未来，地球上の人々が平和に暮らすための産業やテクノロジーの発展・推進のためには，教育と食料が行き渡り，誰もが健康で平等に暮らせる「社会」が必要となる。ここでは，それら全ての土台となるのは，持続可能な「環境」であるという考えによって作られたSDGsの17のテーマをもとにして，各自が自分の課題を見つけ，その解決に向かい，自ら考え，そして行動できるように自分の考えを根拠となる情報に関連付けて書く。その際，お互いに考えを話し合うことで，自分の考えを整理し，「中学生の今，自分は何ができるか」をテーマとすることで，自分事として，進んで根拠を明確にしなが意見文を完成させることを目標としている。

本単元は，第2学年「根拠をもとに意見文を書く」，第2学年「説得力のある批評文を書く」の学習と関連している。今年度の本校の全国学力・学習状況調査の結果では，問題番号 1 四

「話合いの話題や発言を踏まえ、『これからどのように本を選びたいか』について自分の考えを書く」問題や、問題番号三四「表現を工夫して物語の最後の場面を書く、工夫した表現の効果を説明する」問題では特に課題が見られる。考えの形成や記述を苦手としている生徒が多いことがわかる。

自分で課題を選び、材料を集め、自身の考えを明確にすることができるよう、複線型の活動を取り入れ、指導の充実を図りたい。

5. 生徒の実態

授業には意欲的に取り組む生徒が多く、見通しのもてる課題に際しては、最後まで諦めずに取り組むことのできる生徒が多い。他方、基本的な学習習慣が身に付いておらず、基礎基本が定着していない生徒が多数見られる。自身の考えを話したり、他者の考えを聞いて自身の考えを深めたりしていくなどの協働的に学ぶ姿勢が身に付いてない生徒も多い。自身の考えに自信がもてなく、自分の考えを構成させていくための根拠が曖昧であったり、他者の意見を聞いて自分事として捉えることが難しかったりする生徒が多いことがその要因と考えられる。

ICT機器の活用については、Google workspace for education の機能を活用して、場面に応じ様々な活動を取り入れてきた。また、グループでの活動や創作活動ではCanva を用いて、意見交流を効率的に行ったり、ICT機器の特性を踏まえた作品づくりなどを行ったりしてきた。

書く活動では、序論-本論-結論を別々に作り、推敲時に体裁を整えたり、音声認識機能を用いて文章を作り上げ、推敲時に手入力で微調整を図ったりするなど、ICT機器を用いてきた。従前の、原稿用紙に執筆する方法では書く活動を苦手とする生徒にもICT機器の活用が効果的であることが窺えた。

また、本のポップや帯を作る活動ではCanva を用い、各々が独創性豊かな作品を作り上げていた。一方、自分で題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることを苦手とする生徒が多数いた。そこで、今回ICT機器を用いて、複線型の授業を行うことで学習過程の質的改善を図り、生徒の資質・能力向上の一助としたい。

6. 本研究とのかかわり

単元を中心となる目標を達成するために複線型の授業を取り入れる。視点となる項目を設定し、生徒が自らの学習状況を把握、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとする授業を構築することで、すべての生徒の可能性を引き出し、確かな学力の向上に結び付けることができるであろう。

〈この授業で身に付けたい資質・能力〉

- ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする。
- ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する。

〈資質・能力を身に付けるために〉

- ・自分の意見文の題材としてふさわしいものを決める場面では、日常生活との関わりの明確さを視点として自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとする機会を設定する。

〈重視したい内容〉

国語科における資質・能力とは「国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力」である。今回の実践で重視したい内容は、「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し伝えたいことを明確にすることである。この視点から資質・能力を身に付けるためには、自分が題材としたい内容と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることで「言葉による見方・考え方」を働かせることが必要である。

そのため、ICT機器を活用し、クラウド上で他者参照や教員とのやりとりができる利点を活かすことで、自分の入力内容が即時反映され、フィードバックを受け、対教師、生徒同士の相談が素早く行うことができるようにしたい。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るため、自身の課題に応じ、個別・協働・一斉を選択できる複線型の授業を取り入れ、学習過程の質的改善に努める。

7. 単元の計画

| 時 | 目標と主な学習活動（・） | 【評価規準】 ○…「記録に残す評価」 ・…「学習改善につなげる評価」 |
|-------------|---|---|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの17の目標について理解する。 ・日常生活の中や、他教科の学習等から、どの目標について意見をもてるか考える。 ・考えがまとまらない場合には追加の資料を読み、考える。 ・選んだSDGsの目標について、日常生活との関わりをスライドにまとめる。（あくまで下書きとしてのスライドなので、考えを整理することを優先し、美しさ等は求めない。） | <p>【主体的に学習に取り組む態度】①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本単元の学習を見通して、自分の意見の根拠を明確にし、進んで自分の意見をもとうとし、目標を選んでいる。 <p>（観察・ワークシート）</p> |
| 2 本 時 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ目標についてグループで意見交換を行う。（スライドを使用） ・グループ内で、自分の選んだSDGsの目標と、日常生活との関わりについて発表する。 ・意見交換の中で、信頼できる複数の情報が取れる目標なのか、意見がまとめられそうな目標なのか見通しをもつ。 | <p>【思考・判断・表現】②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの目標から自分の意見文の題材としてふさわしいものを選び、インターネットや書籍等から収集した情報を整理し、伝えたいことを明確にしている。 <p>（観察・ワークシート）</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本単元の学習を見通して、自分の意見の根拠を明確にし、進んで自分の意見をもとうとし、目標を選んでいる。 <p>（観察・ワークシート）</p> |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・目標に向けての意見文（中学生の今、自分は何ができるか）を書くため、自分が選んだ目標について集めた情報を整理する。 ・複数の情報を使う。 ・数値に示せる資料や、情報源の信頼できるものを集める。（官公庁の資料、統計、書籍、新聞記事等） ・情報を吟味して選び、効果的に使って、自分の意見を組み立てる。 ・書く目的や読み手を意識して情報を精選する。 | <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の意見を支える根拠としてふさわしい情報を複数集めている。 <p>（観察・ワークシート）</p> |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・「中学生の今、自分は何ができるか」というテーマで意見文を書く。 ・1人1台端末を使用し、ドキュメントに自分の意見文を書く。 ・根拠となる部分として、集めた情報を複数、引用する。（作文の苦手な生徒には空欄のある文の形になっているワークシートを配付し、使用させる。また、生徒の選択した課題について、 | <p>【思考・判断・表現】②</p> <ul style="list-style-type: none"> ○集めた情報から自分の意見を支える根拠として必要な部分を引用し、自分の考えが伝わるように文章を書いている。 <p>（意見文）</p> |

| | | |
|---|--|---|
| | 教師の用意した情報を与えたり、情報の取得方法についての具体的な助言をしたりする。) <ul style="list-style-type: none"> 根拠を補うように、具体例を示す。 | |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> できあがった意見文を互いに読み合い、感想を交流する。 単元の学習を振り返る。 | 【主体的に学習に取り組む態度】① ○本単元の学習を通して、自分の意見の根拠を明確にし、学習課題に沿って意見文を書くために試行錯誤したことを振り返り、次の学習に生かそうとしている。 (観察・ワークシート) |

8. 本時の学習 (2 / 5)

(1) 目標

- 本単元の学習を見通して、自分の意見の根拠を明確にし、進んで自分の意見をもとうとし、目標を選んでいる。 【主体的に学習に取り組む態度】
- SDGsの目標から自分の意見文の題材としてふさわしいものを選び、インターネットや書籍等から収集した情報を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。

【思考・判断・表現】

(2) 展開

| 学習過程 | 生徒の活動 | 教師のかかわり | 評価規準 (評価方法) *努力を要すると判断される生徒への手立て |
|----------|---|---|---|
| 導入 5 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の学習を想起する。 <ul style="list-style-type: none"> SDGsの17の目標を理解し、どの目標について自分の意見をもてるかや選んだ目標と日常生活との関わりをスライドに整理したことを想起する。 ○ 課題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 自分の選んだ目標について意見交換を行い、自分の意見文の題材を決める。 </div> | | |
| 展開 10 | <ul style="list-style-type: none"> ○ Chromebookで前時に作成したGoogleスライドを開き、加除訂正があれば微調整を行う。 ○ グループでの意見交換を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 意見交換の説明を聞く。 自分の選んだ目標についての意見交換を行い、学習への見通しをもつ。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 1グループ4-5名のグループを用意し、座席を移動するよう指示する。 ○ グループで意見交換を行う際の留意点を説明する。 <ul style="list-style-type: none"> 人の発表を聞いて前時に決めた題材を変えてもよい 質問をしてもよいが、否定はしないこと | 【思・判・表】① ○ SDGsの目標から自分の意見文の題材としてふさわしいものを選び、インターネットや書籍等から収集した情報を整理し、伝えたいことを明確にしている。 |

| | | | |
|-----------|--|--|--|
| <p>15</p> | <p>○ 学習活動について説明を聞き、それぞれの学習課題に取り組む。</p> <p>【複線型】</p> <p>① SDGsの目標と、日常生活との関わりが明確になった生徒 →選んだ課題についての情報を集める。</p> <p>② SDGsの目標と、日常生活との関わりが明確でなく、もう少し他のクラスメイトと意見交換をしたい生徒 →同じ考えの生徒を探し、意見交換を行う。</p> <p>③ SDGsの目標や日常生活との関わりを選定することができない生徒 →教師のまわりに集まり、支援を仰ぐ。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・発表，感想記入含め一人3分を目安にすること ・意見交換のポイント (自分事として捉えられているか。調べる際にはっきりしたデータがありそうか。自分の考えを述べられそうか。) <p>○ グループでの意見交換はスライドを共有して行うことについて説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共有の仕方 ・スライドの最後に新しいスライドを挿入し，感想欄を設ける <p>○ 学習活動を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの学習課題を説明する。 ・現状自分は下記①②③のどの位置にいるか判断し，カードを机の左上に置く。 (活動を進めていき，段階が変わったと思ったらカードを変える旨も述べる) ・誰と意見交換するかは作業シート「みんなの課題」を見て決め，自由に移動して交流してよい。 ・評価規準を説明する。 <p>○ 調べた中で有用な情報は，スプレッドシートの作業シートに貼り付け，情報の共有を行う。</p> <p>○ 日常生活との関わりについては他の生徒と意見交換し，自身のこれまでの生き方で似たような経験がないかを想起することが大切であることを強調する。</p> <p>○ 「お助けシート」を配付し，目標の選定や日常生活との関わりをどう結びつけばよいかわからない生徒の支援を行う。</p> | <p>(Google スライド・観察・ワークシート (Google スプレッドシート))</p> <p>* 「お助けシート」を配付し，項目毎に分かれ，それを記入し，つなげていくと意見文の大枠ができるように支援を行う。</p> |
| <p>18</p> | <p>○ SDGsの目標，日常生活との関わりが明確になった生徒から順次，選んだ課題についての情報を集める。</p> | | |

| | | | |
|-------------|--|--|--|
| 終 末 2 | <input type="radio"/> 振り返り <input type="radio"/> Google スプレッドシートに振り返り，（あれば）相談したいことなどを記入する。 <input type="radio"/> 次時の予告を聞く。 | | |
|-------------|--|--|--|

<参考文献>

田中洋一監修・鈴木太郎編著

「中学校国語科『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実を通じた授業改善 第1学年（2023.8 明治図書出版）」

富山哲也・杉本直美・黒田諭編著

「中学校国語科新3観点のテストづくり&学習評価アイデアブック」（明治図書）

<観点別学習状況の評価の進め方>

（1）知識・技能の評価の進め方

Aの具体的な姿の例

自分の経験や知識，情報などの整理の仕方について把握し，ワークシートなどの適切な場面に書き込むことができていること，根拠としての情報同士の関係が矛盾なく意見に結び付いていることを理解している。

Cへの支援

ノートを用いて，自分の経験や知識をマッピングなどの思考ツールを用いて，思いのまま書くように指示し，書かせたあと，その内容がどの場所にあてはまるかについて，ワークシートなどを基に考えさせる。

（2）思考・判断・表現の評価の進め方

Aの具体的な姿の例

ワークシートをもとに，根拠を明確にして，自分の考えを整理しながら，客観性のある情報を加えるなど適切な構成を考えて書いている。

Cへの支援

ワークシートをもとに，観点や根拠などの各内容について一つ一つ検討させて，よりふさわしい観点を根拠にさせて，順番を考えながら段落を意識して書くように支援する。

（3）主体的に学習に取り組む態度の評価の進め方

Aの具体的な姿の例

教科書教材を十分に読み込んでP100「学習活動の流れ」を踏まえて学習に取り組み，意見文例を自分の意見文のゴールとして設定しようとしている。

Cへの支援

教科書教材の「学習活動の流れ」について，番号の上にチェックを付けさせるなどして，自分の学習の進捗度合いを明確にさせるとともに，教科書の意見文例の客観性のある情報と自分の経験に傍線を引かせる。

第3学年 社会科学習指導案

日 時 令和 6年11月 8日(金) 第6教時
児 童 3年1組 20名
指導者 教諭 佐藤 由 子

1. 単元構成

- 大単元 「はたらく人とわたしたちの暮らし」(19時間扱い)
- 小単元 「店ではたらく人と仕事」(11時間扱い)
- 小単元 「工場ではたらく人と仕事」(8時間扱い)

2. 本単元「店ではたらく人と仕事」の目標

- 地域に見られる販売の仕事の様子について、人々との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動や地図帳などの資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 販売に見られる仕事の工夫や特色、意味を考える力や考えたことを表現する力を養う。
- 学習問題を追究・解決するために、地域に見られる販売の仕事の様子について意欲的に調べ、特色や相互の関連、意味について粘り強く考えたり、調べたことや考えたことを表現しようとしたりする主体的な学習態度を養う。

3. 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">・消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、販売に携わっている人々の様子を理解している。・調べたことを白地図や関係図などにまとめ、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解している。 | <ul style="list-style-type: none">・消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、問いを見だし、販売に携わっている人々の仕事の様子について考え表現している。・消費者の願いと販売の仕方を比較・関連付けたり、わかったことを総合するなどして販売に携わっている人々の仕事に見られる工夫を考えたり、学習したことをもとに社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に判断している。 | <ul style="list-style-type: none">・地域に見られる販売の仕事について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 |

4. 単元について

本単元は、学習指導要領第3学年及び4学年の内容(2)「地域に見られる生産や販売の仕事について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。」を受けて設定するものである。「次の事項」とは、「(ア) 生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解すること」「(イ) 販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解すること。」を指している。

本小単元では、買い物調べやスーパーマーケットの見学を通して自分達の消費生活に関心を持ち、消費者の願いに応えようと努力している店の販売の工夫をまとめたり、よりよい消費生活や国内諸地域や外国とのつながりについて考えたりすることをねらいとしている。

本校のすぐ近くには中規模のスーパーマーケットがあり、児童にとっては非常に身近な店舗である。また隣接校区にも数店舗が営業している。普段の生活体験や調査・見学を通して、自分たちの消費生活を見つめ直していくことに役立っていくと考える。

5. 児童の実態

児童はこれまで、前単元「わたしたちのまちと市」の学習で、校区内を実際に見学し気付いたことを地図にまとめたり、函館市の土地利用の様子や交通の様子、主な公共施設などについて地図や資料をもとに考えたりする活動に取り組んできた。

見学などで実際に見た物については、その経験を生かして積極的に発表する児童もいたが、自分なりの考えをもつ活動や、それぞれの特徴を比べながら考えるという活動には、児童からの反応があまり見られない実情もある。また調べる活動などに集中力が持続しない子も何人かおり、いろいろな方法を使って、自分の身近な地域について学習するよさについてもっと感じさせていきたいと考えている。

そこで、本小単元では、児童の生活に身近なスーパーマーケットを通して、児童の経験も生かしつつ、自分が調べたい方法を選択しながら、グループで話し合ったり、買い物調べや見学・インタビューなどの体験活動を多く取り入れたりすることによって、消費者の願いにこたえるための工夫や働いている人々の思いや願いについて迫っていきたい。

6. 本研究とのかかわり

本単元では、子ども一人一人の興味関心や多様な方法で課題を解決していく学習活動を展開するために、子ども達がそれぞれ学習方法を選択する場面を設定し複線型の授業を適切に位置付けていくこととした。

まずは、単元を通して、どんな課題を追求していくのかという見通しをもたせ、「調べたい」「相談したい」という意欲を引き出すために、必要感のある活動を設定することが重要である。

本時では、スーパーマーケットの工夫を調べる見学の前段階の活動である。限られた見学時間の中で何を観察し、店員さんにどんなことを質問したいのかを明確にしていく。

また、「主体的・対話的で深い学び」を図るために ICT を効果的に活用することで、グループや全体交流で、互いに自分の考えを伝え合い、協働的に話し合いをする場面で、課題の理解が促されたり、自分のつまずきに気付いたりとわからない子にとっても、学習に意欲的に取り組めるきっかけとなる。

7. 単元の計画

| 時 | 目標と主な学習活動（・） | 【評価規準】（方法） （0…「評定に用いる評価」・「学習改善につなげる評価」） |
|-------------------------|---|---|
| オリエンテーション | <p>「まちたんけん」で見つけた人が、どんな仕事をしていたか整理しよう。</p> <p>・まち探検や市の様子調べの活動を振り返り、地域には販売や生産の仕事があり、それらの仕事がわたしたちの生活とどのような関わりがあるのか関心をもち、学習の見通しをもつ。</p> <p>地いきではたらく人の仕事について調べたい。</p> | <p>【思判表】</p> <p>・教科書の写真から、それぞれどのような仕事で働く人なのかを考え、表現している。（発表・ノート）</p> |
| 小単元「店ではたらく人と仕事」（10時間扱い） | | |
| 1 | <p>家の人たちは、どのような店で買い物をしているのだろう。</p> <p>・家の人々がどんな店で買い物をしているのが発表し、買い物調べの計画を立てる。</p> <p>買い物調べをして、調べたことをカードに書いてくる。</p> | <p>【思判表】</p> <p>・家の人々が買い物に行く店や買う商品について調べて、カードにまとめる計画を立てている。（発表）</p> |

| | | |
|----------------|---|---|
| 2 | <p>家の人たちは、どこで買い物をすることが多いのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物調べの成果を発表し、店のある場所や行った人の人数を、地図や表・グラフにまとめ、気付いたことを話し合う。 <p>家の人たちは、スーパーで買い物をすることが多い。</p> | <p>【思判表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物調べカードの集計をもとに、分布図やグラフに表し、その意味を表現している。(発表・ワークシート) |
| 3 | <p>お店でお金をはらう仕組みは、どのようになっているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レシートを調べ、店が売り上げを高める工夫について話し合い、学習問題をつくる。 <p>【学習問題】 なぜ、スーパーマーケットには、たくさんのお客さんが集まるのだろうか。</p> | <p>【思判表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レシートの情報から、店が売り上げを高める工夫について話し合い、学習問題をつくっている。(発表・ノート) |
| 4 本時 | <p>どんなことを調べれば、スーパーマーケットのくふうがわかるだろう。みんなで「？」を出し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーマーケットを見学する視点を確認する。 | <p>【思判表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○見学に関心をもつとともに、自分の調べたいことを明確にし、表現している。(発表・ノート) |
| 5 | <p>スーパーマーケットを見学する計画を立てよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーマーケットを見学する計画を立て、見学の視点を確認する。 | <p>【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○店の売り上げを高める工夫について予想し、学習の見通しを立てて、主体的に追求しようとしている。(発表・ノート) |
| 6 7 (見学) | <p>スーパーマーケットには、どのようなくふうがあるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーマーケットを見学し、売り場の工夫について調べわかったことをワークシートに書く。 <p>店には、さまざまなくふうやサービスがある。</p> | <p>【知技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事前に決めた視点ごとに、売り場の様子を観察したり、インタビューをしたりしながら必要な情報を集めている。(行動観察・ワークシート) |
| 8 | <p>店ではたらいっている人たちは、どのようなことに気をつけているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーマーケットで働く人たちが、それぞれどのような工夫をして仕事をしてきたのかを調べたことから発表する。 <p>店ではたらく人は、お客さんによるこんで買い物をしてもらうために、さまざまなことに気をつけている。</p> | <p>【知技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○店には、販売の他にさまざまな仕事で働く人がいることを理解している。(発表・ワークシート) |
| 9 | <p>店で売られている商品は、どこから運ばれてくるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーマーケットの商品の産地を調べ、白地図に位置付け整理する。 <p>店で売られている商品は、国内や外国のさまざまな地いきから運ばれてくる。</p> | <p>【知技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店は商品の仕入れを通じて、国内外の他地域と関わっていることを理解している。(発表) |

| | | |
|-----------|---|--|
| <p>10</p> | <p>お客さんは、どんなことに気をつけて買い物をし、店はどのようにくふうしているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> •客や家の人、買い物で気をつけていることを調べ、それについて店はどのように対応しているのか整理する。 <p>店は、お客さんが気持ちよく買い物できるようにくふうし、お客さんは、くふうの多い店にこのんで行く。</p> | <p>【知技】</p> <p>○消費者にはさまざまな関心があり、販売者は、それらに対応していることに気付き、両者の関わりを整理・分類している。(発表・ノート)</p> |
| <p>11</p> | <p>客のねがいと店のくふうのつながりを整理して、学習をまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> •客の願いと店の工夫との関係をまとめ、気がついたことを発表する。 <p>【単元のまとめ】</p> <p>店は、お客さんによろこんで買ってもらえるように、ねだん・品ぞろえ・新せんさ・べんりさなどをくふうして、売り上げを高めている。</p> | <p>【思判表】</p> <p>○客の願いと店の工夫を関連付けて、関係図に表現している。(発表・ワークシート)</p> <p>【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> •学習したことや学び方を振り返り、これからの学習に生かそうとしている。(発表・ノート) |

8. 本時の学習（4 / 1 1 時間）

(1) 目標

見学に関心をもつとともに、調べ方を工夫しながら自分の調べたいことを明確にし、表現することができる。

【観点】思考・判断・表現

(2) 展開

| 学習過程 | 児童の活動 | 教師のかかわり | 評価規準（評価方法） *努力を要すると判断される児童への手立て |
|-----------------|--|---|--|
| 導入 5分 | ◎前時までの活動を振り返る。 ◎スーパーマーケットでは、たくさんのお客さんに来てもらうために、どんな工夫をしているのかな？ | ・教科書のイラストを確認しながら学習問題を確認する。 | |
| 展開 35分 | <p>どんなことを調べれば、スーパーマーケットの工夫がわかるだろう。みんなで「？」を出し合おう。</p> | | |
| 個別 15分 | ○それぞれ方法や資料を選んで、店の工夫について調べたいことを見つけよう。 | ・イラストを調べる時には、消費者の視点を伝える。 | |
| 個別 15分 | ◎自分の選んだ方法で調べる。 ・教科書（イラスト） ・いくつかのお店のホームページ ・写真 ○なぜ色々な商品がならんでいるのかな。 ○どうして特売品や安売りをしているのだろう。 ○試食コーナーがあるのは、なぜだろう。 | ・観察してきたいことと質問したいことを分けて書かせる。 | ○見学に関心をもつとともに、自分の調べたいことを明確にし、表現している。 |
| 個別 15分 | ☆相談タイム☆ 自分と同じ方法で調べている人と相談する。 | | 【思】（発表・ノート） *イラストを確認させながら、消費者の視点や児童の経験などを聞きながら、調べ方を決めさせる。 |
| 全体 交流 20分 | ◎他の人と交流する。 ○安売りや特売品などは値段と関係していると思う。 ○「値段」「品ぞろえ」「新鮮さ」「便利さ」が関係しそうだ。 | ・Canva を使って考えを集約する。 ・個別 / ペア / グループなど、自分に必要な学習形態を選ばせる。 | ○同じ方法で調べている人からのアドバイスをもらうように促す。 |
| 全体 交流 20分 | ○わからないことは、お店の人に聞いてみたいな。 | ・自分の考えを一つホワイトボードに出させる。 ・自分の考えと近い考えのところに貼らせる。 | *それぞれの進み具合を確認しながら、困っている児童には声をかける。 |
| 全体 交流 20分 | ◎「値段」「品ぞろえ」「新鮮さ」「便利さ」「その他」など、おおまかにグルーピングする。 | ・グルーピングの目的を確認しながら、キーワードに着目させ、一緒にグルーピングしていく。 | |
| 終末 5分 | ◎話し合いの振り返りをする。 話し合いの良かったことや反省点などを考える。 | | |
| 終末 5分 | ◎話し合いの振り返りをする。 話し合いの良かったことや反省点などを考える。 | | |
| 終末 5分 | ◎話し合いの振り返りをする。 話し合いの良かったことや反省点などを考える。 次回の活動に向けての確認をする。 | | |

第3学年 算数科学習指導案

日時 令和6年11月15日(金) 第5教時

児童 3年1組 18名

指導者 教諭 森 永 道 也

1. 単元名(題材名) 「分数(分数を使った大きさの表し方を調べよう)」(10時間扱い)

2. 単元の目標

分数の意味や分数を用いた大きさの表し方を理解し、分数の加法及び減法の計算ができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して分数での端数部分の表し方や小数との関係を考える力を養い、分数の仕組みを用いて考えた過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

3. 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|---|
| 端数部分を表す数や大きさを表す数としての分数やその表し方を理解し、それらを活用して分数の加減法の計算や1/10の位までの小数と分母が10の分数の関係について理解している。 | 分数は基準量を任意に等分した単位分数の何こ分かを表していることに着目して、数の大きさを図に表したり、計算したりする方法を考え、説明している。 | 分数を用いることで、整数で表せない等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表せるようになることを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。 |

4. 単元について

本単元では、分数の意味や数の仕組みに着目し、分数を用いた大きさの表し方を理解するとともに、分数を用いた数の表し方やその計算方法、小数との関係について考えたり、説明したりする力を養う。また、考えた過程を振り返り、活用しようとしたりする態度などの育成を図る。

第2学年において1/2や1/3などの簡単な分数について学習し、第3学年第11単元では、分数の意味に着目し、80cmの1/4の長さを、 $80 \div 4$ の除法の式で求められることや、もとの大きさが違えば1/4にあたる量も違うことを学習している。さらに第13単元では、単位量を10等分した1こ分を0.1として、その何こ分で表すことを学習しており、小数を数直線上に表すことで、相対的な大きさを把握したり、数の大小や順序をとらえたりする学習も経験をしている。

分数を用いた長さやかさの端数部分の表し方では、単位量を任意に等分してできた単位分数の個数に着目させ、量の表し方を考えていく。また分割分数についても、もとの大きさや量分数との違いにふれながら、その意味を説明する力を育てていきたい。そのために、分数の意味やもとの大きさに着目させることが大切である。本単元の学習では、もとの大きさが1mや1Lであり、割合を表す分数と量を表す分数が一致しており、もとの大きさに着目する意識をもちにくいため、本時の学習で扱う $3/4$ mと2mの $3/4$ の違いを丁寧に扱い、その違いについて深く考えさせたい。

また、加減計算については、小数と分数の関係から、分数の加減が可能であることに気付かせ、単位分数に着目することで整数の計算方法に帰着できることをおさえていく。このように、整数や小数といった既習の数の学習を基にして、分数が数の仲間であるということを理解させたい。

5. 児童(生徒)の実態

算数科への学習意欲が高い児童が多く、興味をもって問題解決に向かうことができている。既習内容を想起しながら、解決への道筋を立てることができる児童も多く、児童の発言によって学びの方向性が定まっていくな様子も見られる。一方で、算数が得意な児童の中には、早く正答に辿り着くことにとらわれ、自分の見方や考え方を広げたり深めたりすることに関しての意識が薄い様子も見受けられる。また、計算や問題設定の場面をイメージするのが苦手な児童もいるが、反復練習や問題場面を図に表す活動を行うことで、少しずつ力を付けている。

交流場面では、自分の考えを発表することに意欲的で、互いの考えを聞いて意見し合うことがで

きている。本単元の学習を通し、自分の力で問題解決の糸口を見つける喜びや、友達の発表を聞き、自分の考えと比べることで、よりよい方法を見つけ出すことや協働的に学ぶ楽しさを味わいたい。

6. 本研究とのかかわり

本時の学習では、問題発見・解決能力の育成を図るため、問題解決に入る前に予想と見通しを位置付けている。予想を立てたうえで、問題に提示されているテープの長さが $3/4\text{m}$ ではないことをおさえることで、どうすれば問題を解決できるのか、既習内容を想起しながら問題解決に向かう力の伸長を図りたい。

また、1人1台端末の活用が浸透し、児童は思考ツールとしての活用にも慣れてきている。本時では、追求の場面でCanvaのスライド機能を使用することで、個人思考時に自分の考えを深めたり表現したりするだけでなく、他の児童と相互参照できるようにしていく。児童が問題解決につまずいたり、考えが止まったりしたときに、すぐに他の友達の考えが見られることで、個別最適な学びを支えるものになると考える。

7. 単元の計画

| 時 | 目標と主な学習活動（・） | 【評価規準】（方法） （○…「評定に用いる評価」、・…「学習改善につなげる評価」） |
|---|---|--|
| 1 | <p>1mを等分した長さの表し方を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1mのテープを3等分した1こ分の長さの表し方を考える。 $1/3\text{m}$は、その3こ分で1mになる長さであることを確認する。 <p>$1/3\text{m}$は、もとの長さが1mで、その$1/3$の長さ</p> | <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の分数の表し方を用いて、もとの長さを1mとしたとき、3等分した1こ分の長さを1mの「三分の一」といい、「$1/3\text{m}$」と書くことを理解している。（観察） <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 等分していることに着目して、1mのテープを3等分した1こ分の長さを、分数で表す方法を考え、説明している。（観察・ノート） |
| 2 | <p>分数を使った長さの表し方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1mのテープを3等分した2こ分の長さの表し方を考える。 その長さを1mの「三分の二」といい、「$2/3\text{m}$」と書くことを知る。 <p>1mを何等分かした長さの、何こ分と考えると、長さを分数で表すことができる。</p> | <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の単位分数を用いた長さの表し方を用いて、$2/3\text{m}$は1mを3等分した2こ分の長さであることを理解している。（観察・スライド） <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 分数で表される大きさについて、等分した大きさや単位分数の何こ分かに着目して考え、説明している。（観察・ノート） |
| 3 | <p>分数を使ったかさの表し方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1Lを5等分した2こ分のかさの表し方を考える。 「分数」「分母」「分子」の意味を知る。 <p>1Lを何等分かしたかさの、何こ分と考えると、長さを分数で表すことができる。</p> | <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「分数」や「分母」、「分子」の意味を理解し、分数で表されるかさについて、1Lを何等分した何こ分なのかを理解している。（観察・スライド） <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 分数を用いた長さの表し方に着目して、かさについても同様に分数を用いて端数部分の表し方を考え、説明している。（観察・Canva） |
| 4 | <p>分数を数直線に表す方ほうを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 数直線を用いて、$4/5\text{m}$と$3/5\text{m}$の長さの比較を | <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数直線を用いて、長さを分数で表したり、分数で表された長さの比較をした |

| | | |
|-------------|--|---|
| | <p>行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 5/5mは1mと同じ長さであることを確認する。 <p>1を何等分かした1こ分を1めもりとすると、数直線に表すことができる。</p> | <p>りすることができる。(観察・ノート・Canva)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 0と1の間を何等分しているのかに着目して、長さの端数部分を分数で表す方法を考え、説明している。(観察・ノート・Canva) |
| 5 | <p>1より大きい分数の表し方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1/5mの6こ分, 7こ分, …の長さを何mか考える。 10/5mは2mと同じ大きさであることを確認する。 <p>1より大きい分数も, 1/5mをもとにして, その何こ分かで表すことができる。</p> | <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単位分数の何こ分という表し方に着目して, 1より大きい分数の表し方を考え, 説明している。(観察・Canva) <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○等分する数だけでなく, 等分する数と基準量の両方に着目しなければならないことに気付くなど自分の考えを振り返り, 学習に生かそうとしている。(観察・Canva) |
| 6 (本時) | <p>どんな長さをもとにすれば, いいのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ㊦のテープが2mの3/4であることをとらえ, テープの長さの表し方を考える。 1mを何等分しているかに着目し, ㊦のテープの長さを分数で表す。 3/4mとは, もとの長さ1mの3/4の長さであることを確認する。 <p>長さを分数で表すときは, 1mをもとにして, 1/〇mのいくつ分か考えるとよい。</p> | <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○等分した数や基準量を用いて分数で表される量や割合について理解している。(観察・Canva) |
| 7 | <p>分母が10の分数と小数の大きさについて考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1/10を単位とした数直線を基に分数の大きさや, 分数と小数の関係について考え, 1/10=0.1であることを理解する。 小数第一位を「1/10の位」ともいうことを知る。 <p>1/10と0.1は等しい大きさの数</p> | <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数直線上に表された1/10を単位分数とした数について, その大きさや小数との関係を理解している。(観察・Canva) <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○0.1の表す意味や1/10の表す意味に着目して, 分数で表される大きさと小数の関係を考え, 説明している。(観察・Canva) |
| 8 ・ 9 | <p>分数でもたし算ができるか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分数(3/10と2/10)について, 加法を用いることができるか考える。 ・小数の加法の計算と同様に, 1/10の何こ分かで考えればよいことをまとめる。 <p>1/10をもとにして, 3+2の計算で考えることができる。</p> | <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分数の加減法の計算についても, 小数の計算と同様に整数の計算で考えられることを理解し, 計算することができる。(観察・ノート・Canva) <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単位分数の何こ分に着目し, 整数と同じように分数の加減法の計算ができることを式や図を用いて考え, 説明している。(観察・ノート・Canva) |

| | | |
|----|---|--|
| | <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">分数でもひき算ができるか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 分数 ($\frac{4}{5}$ と $\frac{2}{5}$) について、減法を用いることができるか考える。 • 前時の学習を生かして、$\frac{1}{5}$ の何こ分で考えれば整数と同じように計算できることをまとめる。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">$\frac{1}{5}$ をもとにして、$4-2$ の計算で考えることができる。</p> | |
| 10 | <ul style="list-style-type: none"> • 単元のまとめ「たしかめよう」に取り組む。 • 「つないでいこう算数の目」に取り組む。 | <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な問題を解決することができる。（観察・ノート・デジタルコンテンツ） <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。（観察・ノート・デジタルコンテンツ） <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。（観察・ノート・デジタルコンテンツ） |

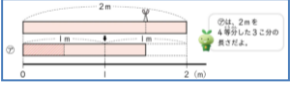
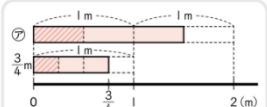
8. 本時の学習（6／10時間）

(1) 目標

等分した数や基準量を用いて分数で表される量や割合について理解する。

【知識・技能】

(2) 展開

| 学習過程 | 児童の活動 | 教師のかかわり | 評価規準（評価方法） *努力を要すると判断される児童（生徒）への手立て |
|--------|--|--|---|
| 導 入 | <p>○ 前時の学習を振り返る。 ○ 問題を把握する。</p> <div data-bbox="256 548 804 741" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2mのテープを、㊦の長さに切りました。 ㊦のテープの長さを、分数で表しましょう。</p>  </div> <p>○ 予想を立てる。</p> <div data-bbox="256 801 804 898" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>3/4mかな？ 3/4mは 1/4mの3つ分だから…あれ？</p> </div> <p>○ めあてを確認する。</p> <div data-bbox="256 969 804 1043" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どんな長さをもとにすればいいのだろう？</p> </div> | <ul style="list-style-type: none"> • $5/5m=1m$, $6/5m$, $7/5m$…と続くことを確認。 • 予想を確認。 • 予想した根拠を問う。 • $3/4m$の大きさについて全体で考え、$3/4m$は「$1/4m$の3つ分」であることを児童から引き出し、誤りであることを押さえる。 | <p>* 問題把握を苦手とする児童への手立てとして、スライドを活用して問題を段階的に提示する。</p> <p>* 予想を立てられない児童には、「1mと2mの間」のように、整数との関係性に着目させる。</p> |
| 展 開 | <p>○ ICT を活用して、自分の考えをまとめる。（Canvaのワークシートに記述）</p> <div data-bbox="256 1182 523 1361" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>$3/4m$は、□ mを4等分した3こ分の長さだから…。</p> </div> <div data-bbox="539 1149 804 1256" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まずは、どんな長さに注目すればいいのかな？</p> </div> <div data-bbox="539 1279 804 1361" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1mを何等分すればいいのかな？</p> </div> <div data-bbox="256 1384 804 1458" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1/2mをつなげていくとどうかな？ 1/3mだとどうかな？</p> </div> <p>○ 「個人学習・ペア学習・グループ学習・先生へ質問」など自分に合った複線型の学習スタイルを選び、追求する。</p> <div data-bbox="256 1592 555 1675" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>3/4以外でどうやって表すのかな…</p> </div> <div data-bbox="571 1592 804 1675" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1/2mをもとにするとよさそう。</p> </div> <div data-bbox="256 1697 555 1805" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1.5mだと思うけど、分数にするとどうなるのかな？</p> </div> <div data-bbox="571 1697 804 1805" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1/3mや1/4mをもとにしたらどうなるのかな？</p> </div> <p>○ 全体交流をする。</p> <div data-bbox="256 1861 804 1966" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1mを2等分しているので、一番小さい部分の長さは、$1/2m$です。$1/2m$の3つ分なので、テープの長さは、$3/2m$です。</p> </div> <div data-bbox="256 1995 804 2074" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1mと$1/2m$を合わせた長さなので、㊦のテープは、1と$1/2m$です。</p> </div> | <ul style="list-style-type: none"> • ヒントとなる長さのテープを用意。 • 長さを分数で表す際の「$1/0m$のいくつ分」に目を向けさせ、見通しをもたせる。（1mをいくつに分けるのか。） • $1/2m$を見つけた児童の考えを広げ、図の中から$1/2m$を探す思考を促す。 • 答えを求めるだけでなく、なぜその答えになったのか、説明の仕方を考えるよう指示を出す。 • つまずきがあった児童の考えを取り上げていき、どのように解決したのか問いかけ、交流を広げていく。 • 発表した児童の考えを全体へ投げかけ確認し、吟味する。 • 1mをもとにすることで、$1/2m$のいくつ分で表すことができる点に着目させる。 | <p>* $1/2m$や$1/4m$の実際の長さを掲示したものをヒントに量感をつかませる。（本単元の1時間目に学習）</p> <p>* ヒント用のスライドを用意し、児童が自由に閲覧できるようにする。</p> <p>* 「元にする長さは何か（$1/2m$, $1/3m$, $1/4m$…）」に目を向けさせる。</p> |

| | | | |
|----|--|--|--|
| | ○ 問題の答えを確認する。 (A) $3/2m$ | | |
| 終末 | ○ 学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 長さを分数で表すときは、1mをもとにして $1/〇m$ のいくつ分か考えるとよい。 </div> ○ 適用問題に取り組む。 <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 5px 0;"> </div> ○ 答えの根拠を Canva のワークシートに記述する。 (振り返り) | <ul style="list-style-type: none"> すべてのテープが $1/2m$ をもとに考えることができるか児童に問う。 ①のテープは $4/6m$、②のテープは $4/12m$ だと揺さぶる。 「一番小さいめもり」に着目した児童の考えを価値づける。 答えの根拠について問う。 | ○ 等分した数や基準量を用いて分数で表される量や割合について理解している。 (観察・Canva) * 本時の学習を想起させ、元とする長さに着目するよう助言する。 |

(3) 板書計画

3 2mのテープを、⑦の長さに切りました。
⑦のテープの長さを、分数で表しましょう。

《見通し》何がわかればいいのか？

- 分数は「 $1/?$ のいくつ分で表す」
- ⑦のテープは、 $1/?m$ をもとにするといいのかな？

☆「1mを 〇つに分けた 1つ分」

どんな長さをもとにすればいいのだろう？

《考え方》

- 色のついた部分は1mを2等分した1つ分なので、 $1/2m$ 。
- ⑦のテープは、 $1/2m$ が3つ分。
(A) $3/2m$

長さを分数で表すときは、1mをもとにして $1/〇m$ のいくつ分か考えるとよい。

3 研究の成果と課題

○ 複線型の授業づくり

(1) 単元を通した評価規準の設定について

| | |
|----|--|
| 成果 | ○ 単元を通して各時間の評価規準を設定し、複線型授業の定着を目指したことから、授業公開時においても、子どもが自ら協働の仕方を選ぶ場面が見られ、子どもの主体的な学びや見通しをもった授業づくりに繋がった。 |
| 課題 | ● 単元を通して育成を目指す資質・能力を明確にし、バランスよく学習活動を位置付ける必要がある。 |

(2) 指導と評価の一体化について

| | |
|----|---|
| 成果 | ○ 1人1台端末を活用することで、子どもの思考の足跡や学習のまとめを記録として残すことができた。また、記録をもとに次時以降の指導方法の改善に繋げていくことで、指導と評価の一体化をより進めていくことができた。 |
| 課題 | ● 単元全体の学習内容の定着や深い学びを目指して、学習改善につなげる評価と評定に用いる評価を意図的・計画的に位置付けていく必要がある。 |

(3) 1人1台端末を活用した授業づくりについて

| | |
|----|---|
| 成果 | ○ ドキュメントに下書きをさせてから、スプレッドシートに意見を貼り付けることで、操作ミスを減少させることができるようになるなど、授業に活用するアプリケーションを精選することで、教師も子どもも負担なく課題解決を行うことができた。 |
| 課題 | ● 操作に関する知識・技能には個人差があることから、使用方法について一斉指導したり、子どもの発達の段階や学習内容に合わせて、板書・ノート等の従来メディアとのベストミックスについて検討したりするなど、端末活用自体が目的化しないように活用していく必要がある。 |

(4) クラウドおよび共同編集の活用について

| | |
|----|---|
| 成果 | ○ 下位層の子どもが上位層の子どもを考えを参考にしたり、共同編集を行ったりすることで、個人思考が児童生徒間で共有され、他者の学びを参照し、自身の学びを調整する機会を与えることができた。 ○ 1人1台端末を活用し、他者参照や学習履歴を蓄積することにより、子どもは個別最適な学びで自身の学びを調整したり、自らの学習を振り返ったりすることが可能となった。また、教師は適宜状況を参照し、適切な支援へと繋げることができた。 |
| 課題 | ● 共同編集時に端末の操作に時間がかかることがあったことから、子どもの実態を把握したうえで、協働して学ぶ手段について検討する必要がある。 |

(5) 授業の一部に複線型を取り入れた授業づくりの実践と検証について

| | |
|----|---|
| 成果 | ○ 子どもが学習の取組方法を自己選択し、主体的に取り組むことで、互いの考えに興味をもち、交流する姿が増えた。 ○ 考えが最後までまとまらない子どもが減り、それぞれで学びに向かうことができていた。 ○ 授業を構築するうえで、子どもが興味をもてるように導入を工夫し、自分事として問題を捉えられるようにすることで、子どもが自分自身で課題を設定し、問題解決に進んで行く姿が見られた。 |
| 課題 | ● 子どもが自分事として問題を考えることができなかった際には、複線型の授業として学びが深まりにくい様子が見られることから、教師側の発問や子どもへの問い返しを事前にしっかりと検討しておく必要がある。 ● 問題発見・解決の過程を複線化する場合、それぞれのペースで取り組むため、それぞれの結 |

果を元に学びを深めようとする時間調整が必要となることから、時間にゆとりをもてるよう計画することが必要である。

- 複線型の授業では、グループの固定化や困り感が多数存在した場合の対応などについて検討していく必要がある。

4 次年度の展望

今年度の研究を通して、子どもが主体的に1人1台端末を活用しながら、一人一人の子どもが興味・関心等に応じた課題意識をもち、多様な方法で多様な課題を解決していく学習活動を展開する「複線型の授業」の実践例を示すことができた。

その一方で、課題意識や解決の見通しが十分にもてないまま複線型の授業を進めた場合は、学びが深まりにくいなどの課題が見られたことから、引き続き実践を重ねて、よりよい「複線型の授業」への理解を深めていく必要がある。

本研究テーマは、今年度が3年次計画の1年目であることから、次年度に向けては、今年度の成果と課題を十分に踏まえつつ、複線型の授業のさらなる実践と検証を通して、子どもの学びの質を一層高めるための学習指導の在り方について、引き続き、研究を推進したい。

《参考文献・資料》

- ・小学校学習指導要領（文部科学省）
- ・中学校学習指導要領（文部科学省）
- ・「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中央教育審議会）
- ・令和4年度小学校・中学校教育課程編成の手引き（北海道教育委員会）
- ・令和5年度小学校・中学校教育課程編成の手引き（北海道教育委員会）
- ・令和6年度 学校教育指導資料
「誰一人取り残さず個々の可能性を最大限に引き出す教育」のために（函館市教育委員会）
- ・令和5年度 学校教育指導資料「子どもに寄り添う指導・支援の充実」を目指して（函館市教育委員会）
- ・函館市教育振興基本計画 2018年度（平成30年度）～2027年度（令和9年度）
（函館市教育委員会）
- ・「学び続ける力と問題解決 シンキング・レンズ、シンキング・サイクル、そして探究へ」
（東京学芸大学教育学部教授 高橋純 2022）

【研究担当者】

【研究員：言語能力育成部会】

森 紗 織（函館市立北美原小学校教諭）
渡 邊 香緒里（函館市立あさひ小学校教諭）
佐々木 敬（函館市立五稜郭中学校教諭）

【研究員：情報活用能力育成部会】

樋 田 総一郎（函館市立本通中学校教諭）
藤 田 駿（函館市立万年橋小学校教諭）
佐 藤 由 子（函館市立本通小学校教諭）

【研究員：問題発見・解決能力育成部会】

小 林 元 貴（函館市立深堀中学校教諭）
武 田 秀 文（函館市立桔梗小学校教諭）
森 永 道 也（函館市立高丘小学校教諭）

【担当指導主事】

言語能力育成部会：寺澤 春佳
情報活用能力育成部会：葛西 猛
問題発見・解決能力育成部会：佐々木 誠